

大郷町 公共交通に関するアンケート 調査結果報告書

データと住民の声から読み解く、
持続可能な公共交通へ

大和町

大郷町

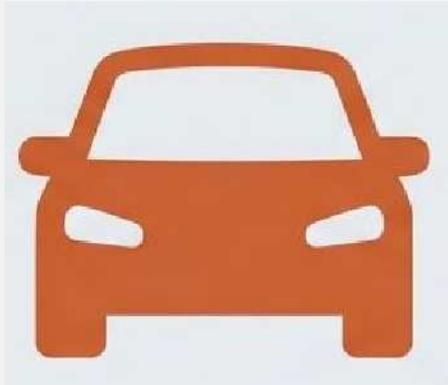
大崎市

松島町

利府町
塩釜市

2026年2月
大郷町地域公共交通協議会

現状のミスマッチと変革への合意



圧倒的な自家用車依存 (90%超)

住民の移動の多くは自家用車に依存。既存の「住民バス」「ふれあい号」は生活動線（通勤・通院・買物）とあまり噛み合っていない状況。



「時間」と「場所」の乖離

住民の生活圏は町内完結ではなく、大和・利府・富谷・仙台に広がっている。また、通勤や週末の移動ニーズに対し、現在の運行スケジュールが対応できていない状況。



利便性向上への負担許容

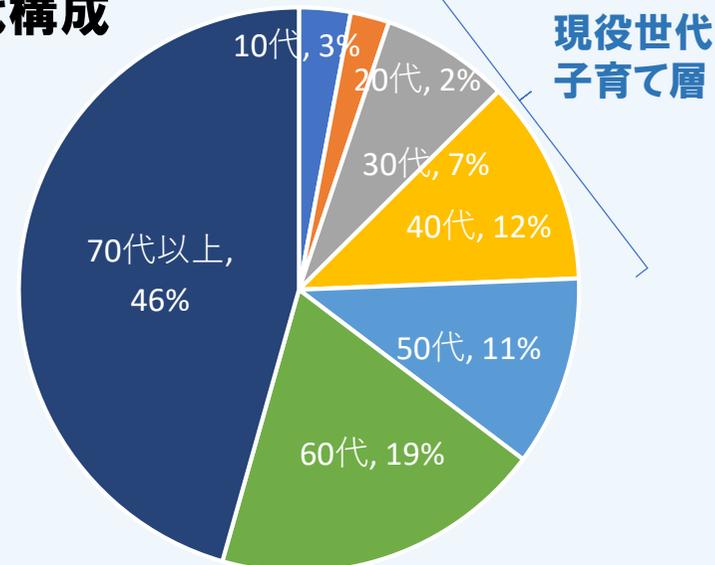
多くの住民は、「安価な現状維持」よりも「運賃を上げてでも利便性を向上させること」を望んでいる。デマンド交通や週末運行への転換に対する肯定的な意見が多い状況。

現役世代から高齢層まで、町の「移動」を担う層の声

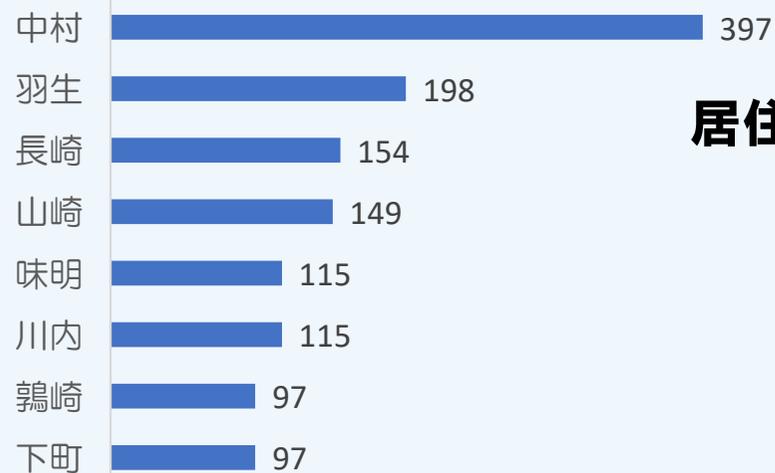
今回のアンケートは15歳以上の町民6,617人に対して実施しており、郵送・Webにより回答。

回答者は2,163人で32.7%の回答率となっており、高齢者のみならず、働き盛り・子育て世代（30-50代）が大きな割合（35%）を占めている。

年代構成



現役世代
子育て層



居住地

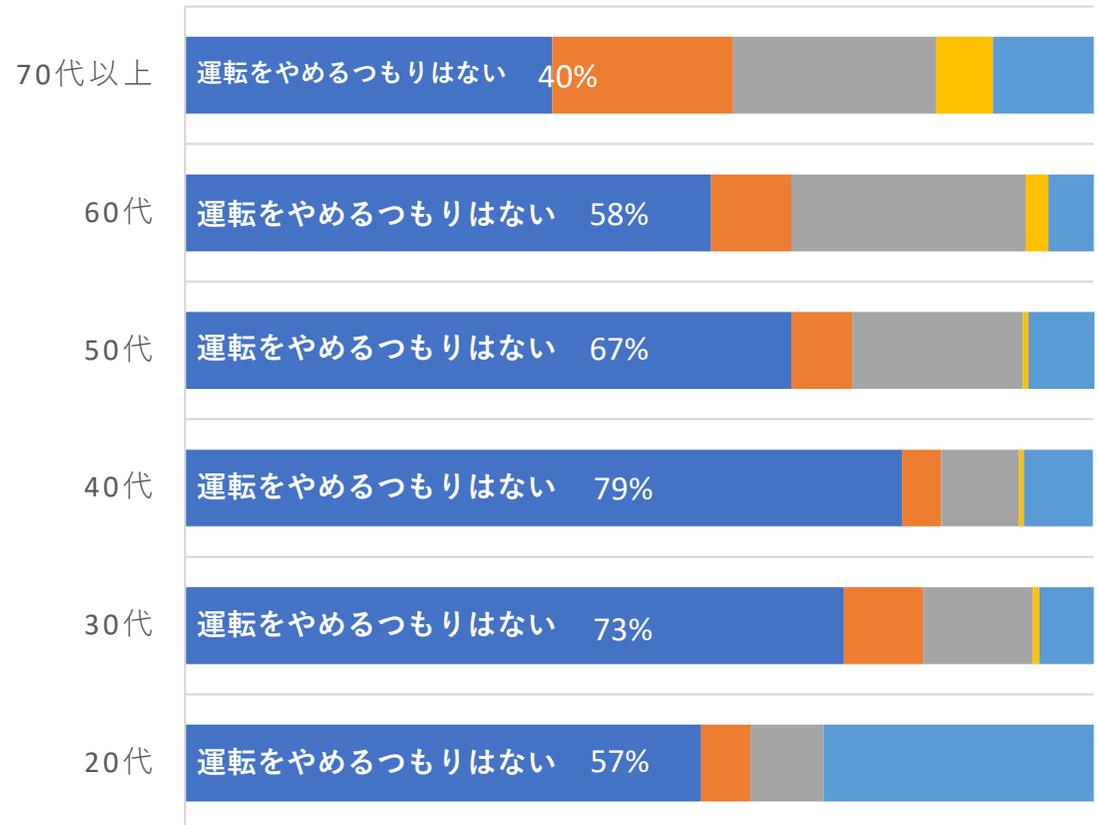
「クルマがなければ生活が困難」という現実

90%以上

日常的に自家用車を運転

買物、通勤、通院のすべてにおいて自家用車が第1選択肢である。

「運転できなくなったら生活が難しくなる」という潜在的な危機感が全世代に漂っている。

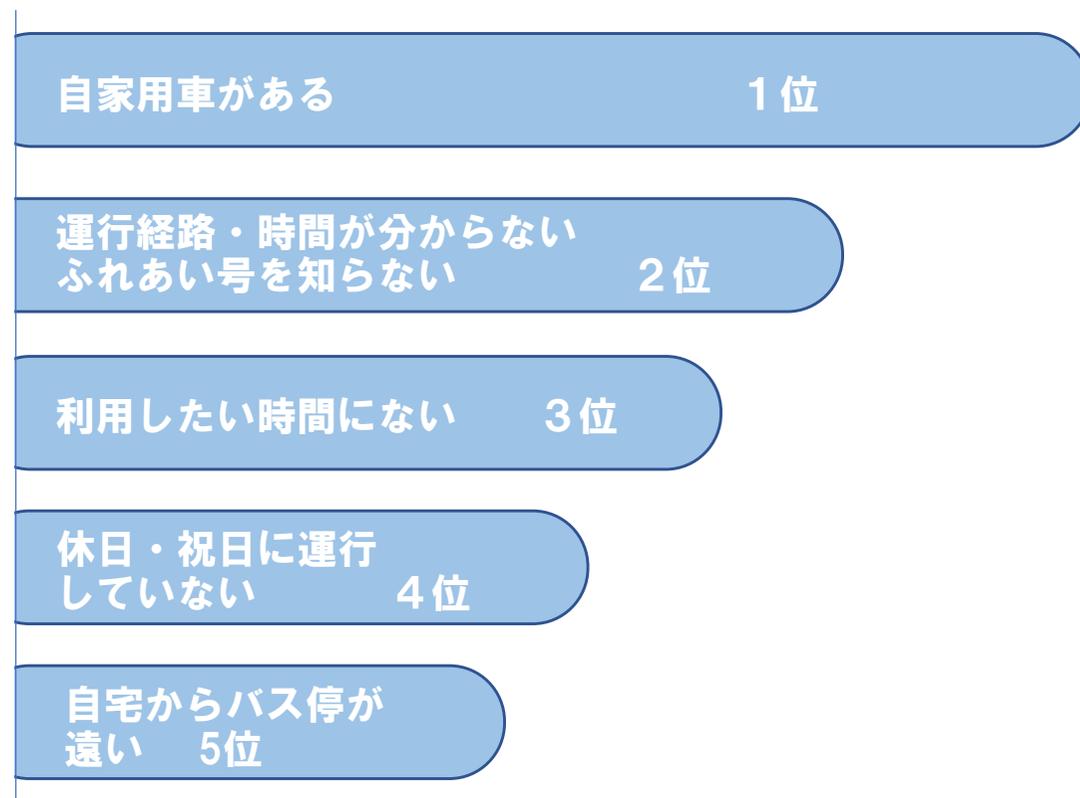


- 運転をやめたいが、移動手段がないため難しい
- 将来的には運転をやめる予定である
- 近々運転をやめる予定である
- その他

既存交通の「視認性」と「利便性」の欠如

なぜ住民は住民バス・ふれあい号を使わないのか？

利用しない理由



「ふれあい号の存在自体を知らなかった」

「利用方法（予約）が分かりにくい」

30代男性（中村）

「住民バスが利用したい時間に合わない」

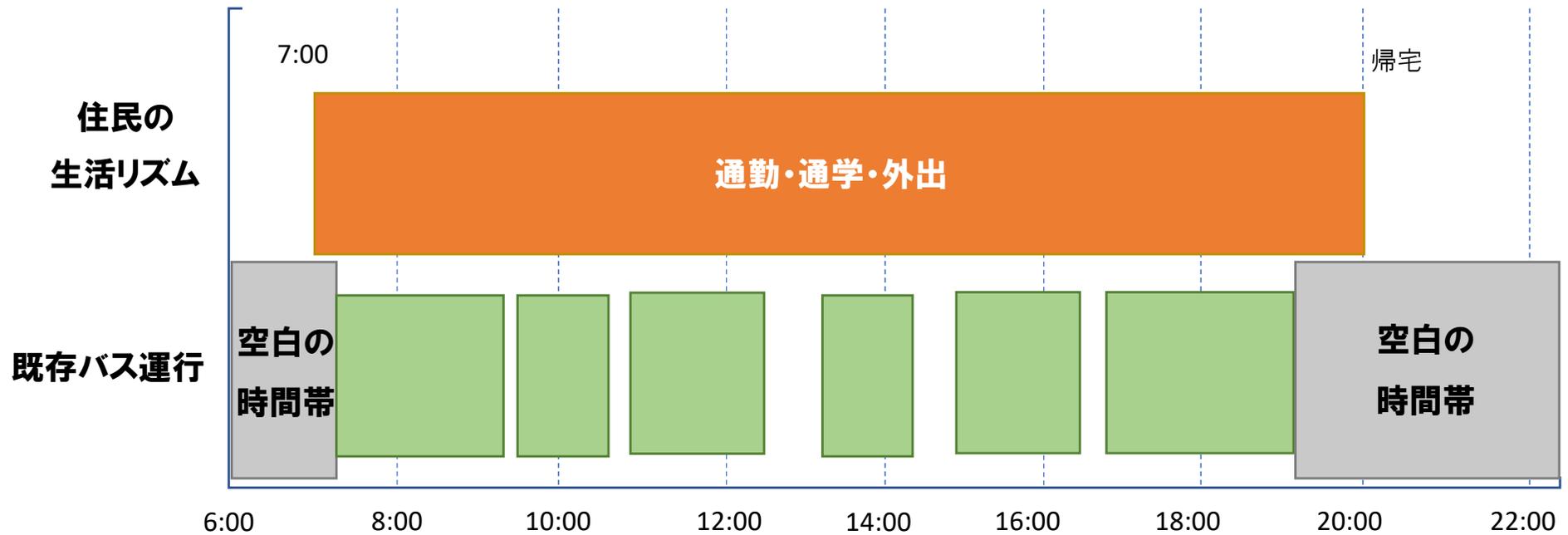
「休日・祝日に運行していない」

60代女性（中村）

利便以前に、情報が届いていない。あるいは利用のハードル（予約の複雑さ等）が高すぎて選択肢に入ってこない。

時間の壁

生活リズムと運行ダイヤの不一致



「利府駅7:50発の電車に乗らないと間に合わない」
(20代女性)

「最終便が早く、残業や部活動に対応できない」
(複数回答)

生活圏の拡大 町内循環から「都市間接続」への希求



住民が求めているのは、町内を回るバスではなく、生活機能が集積する周辺都市へ直結する「足」である。

空白の週末 休日の移動手段喪失

週間スケジュール

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
✓ 運行日	✓ 運行日	✓ 運行日	✓ 運行日	✓ 運行日	✗ 運休	✗ 運休

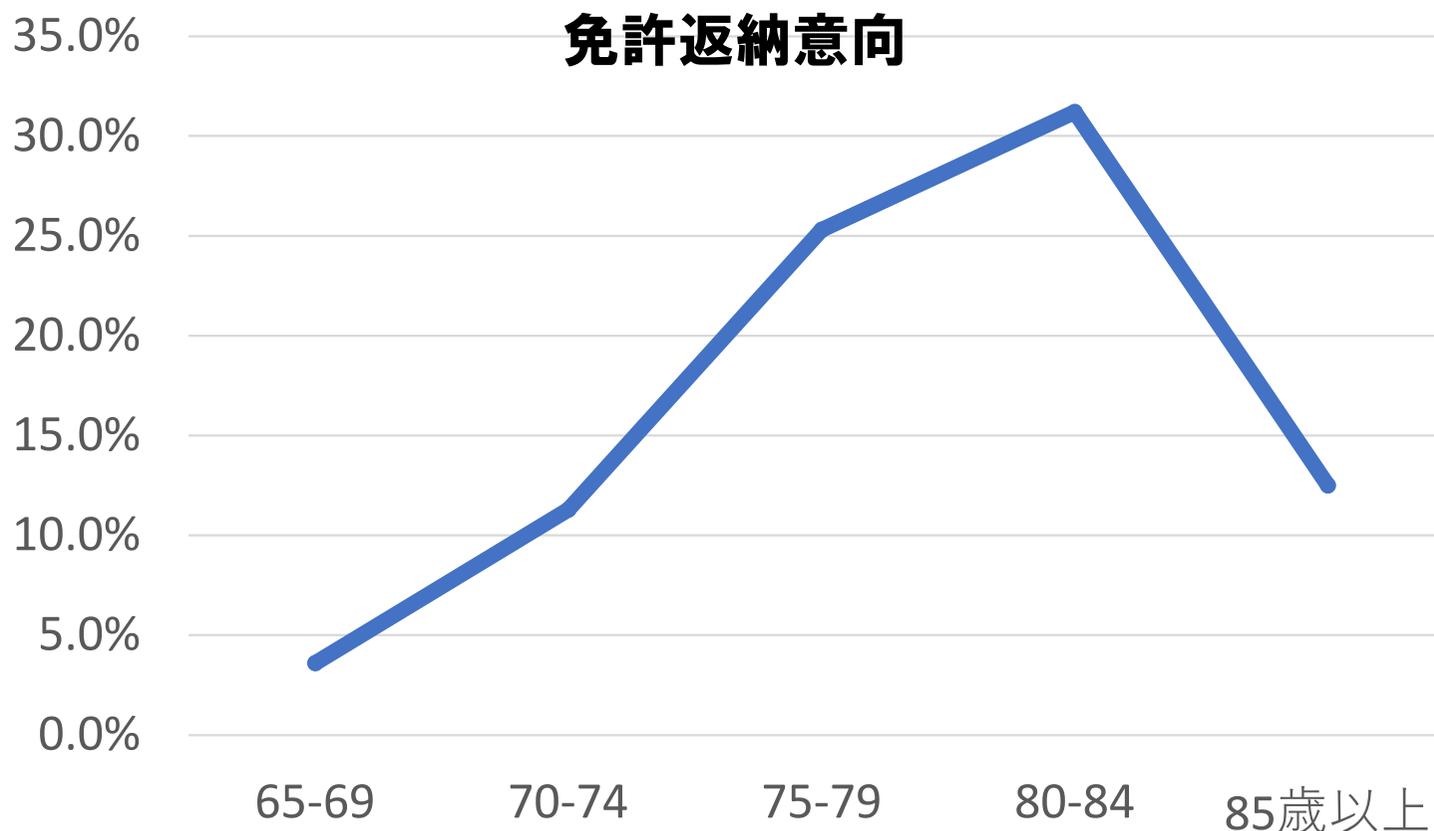
平日は仕事、週末は買物やレジャー。

しかし、現在の住民バスは土日祝日に運行していない。自家用車を持たない層（学生・高齢者）は、週末に町外に出掛けられないため、家族の送迎に頼らざるを得ない。

「休日遊びに行きたいが、車もバスもなくて行けない」
（20代女性）

「土日の利府イオン行きがあれば利用したい」
（30代女性）

数年後に訪れる免許返納の波



現在は自力で運転している70代も、数年以内には免許返納を検討する時期に入る。返納後の代替手段として「バス・タクシー」が挙げられているが、現状の利便性のままでは、生活の質が低下する。

「家族送迎」の限界と負担



公共交通の不備は、現役世代（30-50代）の時間を奪っている。親の通院送迎、子供の駅までの送迎が、仕事や家事の合間を縫って行われている現状。

「高校・大学の子供たちの登校だけでも送ってくれると嬉しい」(30代女性)

「親の介護・通院送迎が負担」(複数回答)

住民が求める解決策：柔軟性と接続性



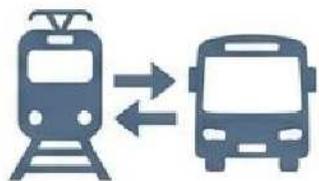
運行時間・曜日の拡大

早朝・夜間、そして週末の運行



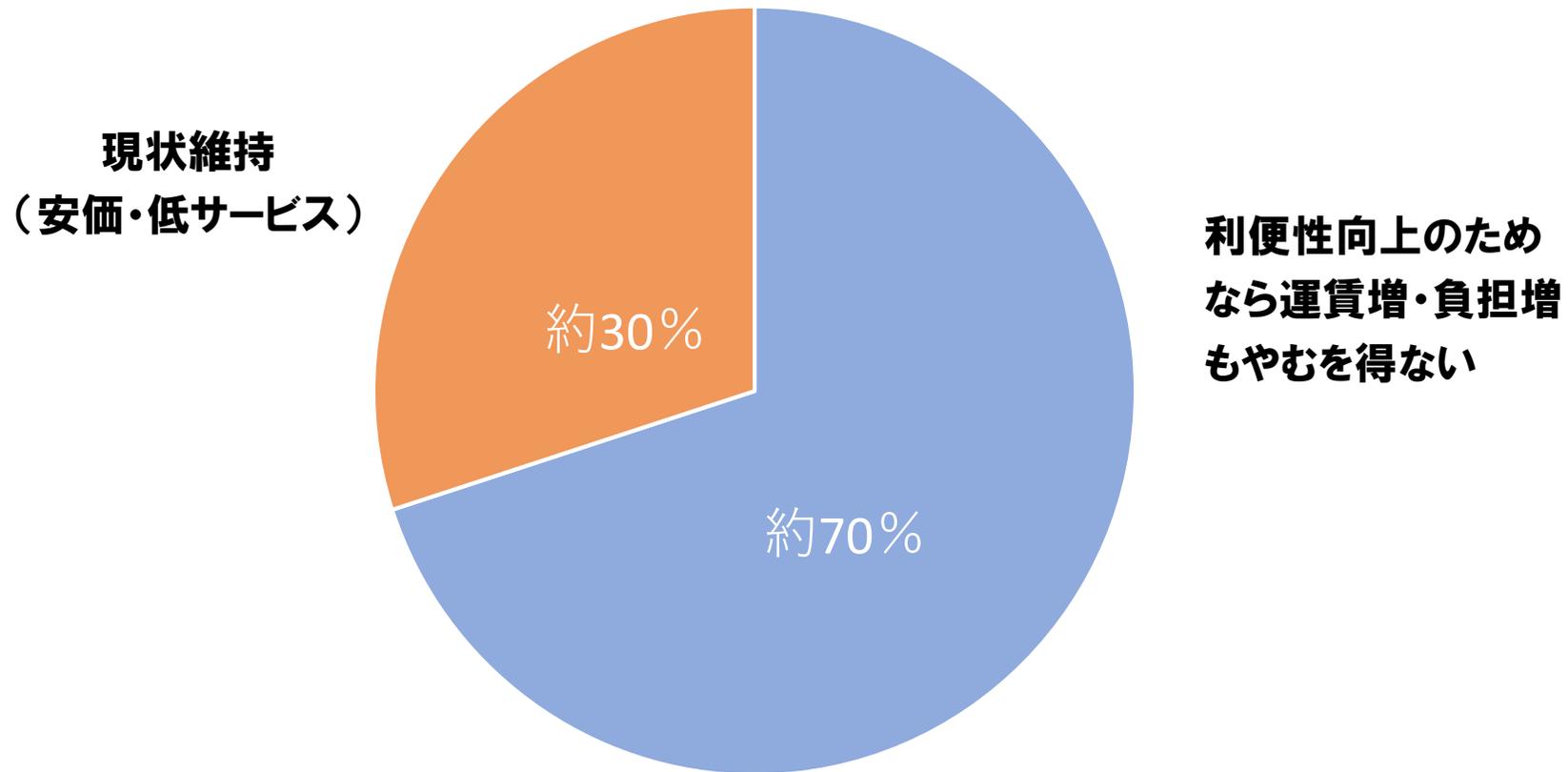
デマンド交通・予約制サービス

「デマンドタクシー」「スマート交通」への言及多数



他地域への接続 JR松島駅・利府駅・塩釜駅、大和町
バスターミナル、スーパー等への直結

「安さ」より「使える」ことへの投資意欲



住民は「無料・格安の不便なバス」より、「相応の代価を払ってでも、確実に移動できる手段」を求めている。
有償のデマンド交通や、週末の有料シャトル導入への意向が強い。

町民の切実な声(自由記述より)

「車がないと暮らしていけない。若者が離れていく。」

「高齢者が免許返納しても生活できる環境を今から作ってほしい。」

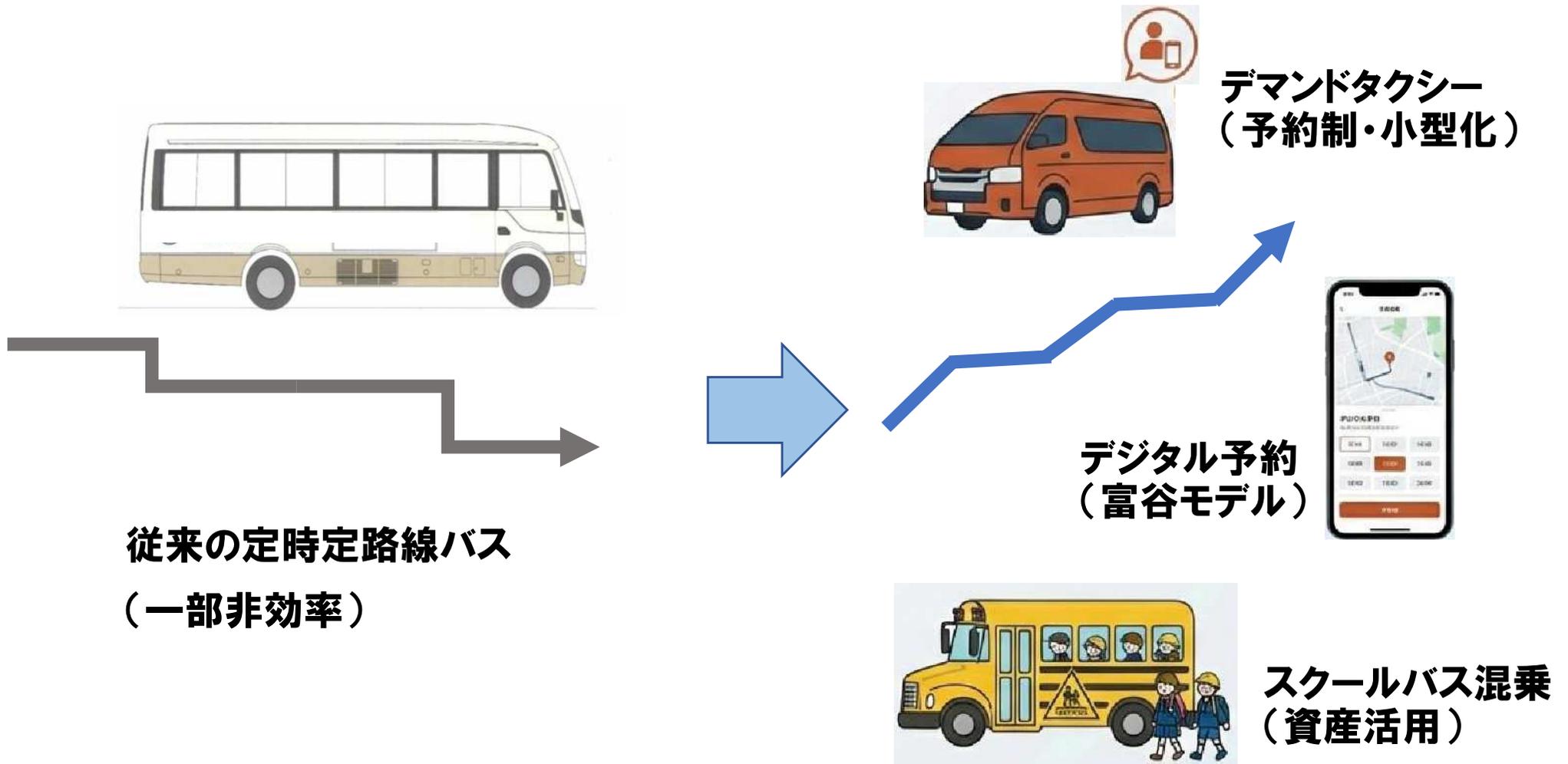
「タクシーも呼べない。民間のライドシェアでもいいから導入して。」

「小型車に切り替えて、デマンド交通のような仕組みを導入すべき。」

「仙台圏の高校に通学していた時は、送迎でかなり親に負担をかけた。」

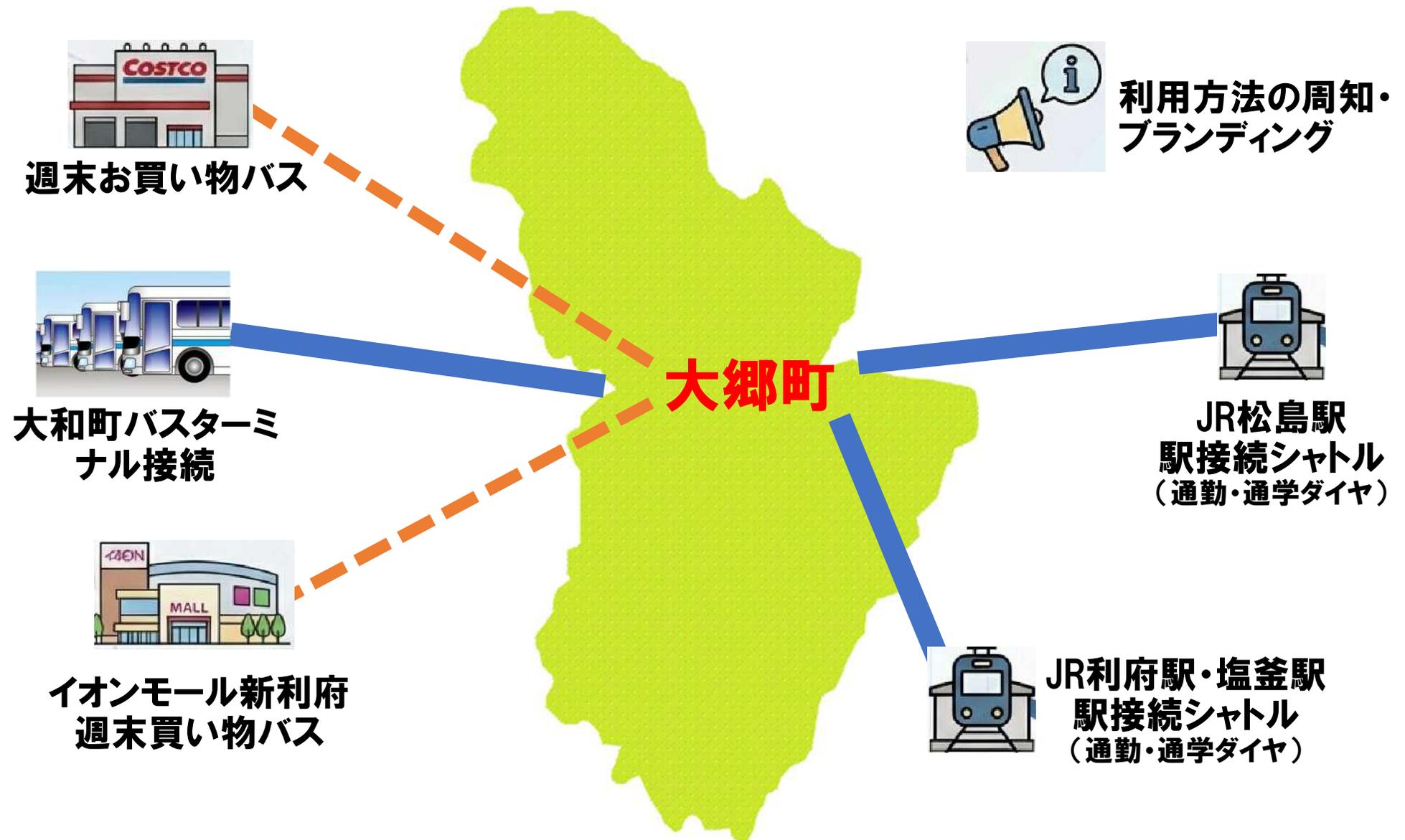
「交通が不便で子供を高校に行かせるのも悩み、学校の選択肢も減ります。」

固定ルートから「デマンド・柔軟化」へ



大型バスだけでの非効率な運行をやめ、一部を需要に応じた柔軟な小型モビリティへ転換することも。

町外接続と「生活時間」への適応



公共交通の再構築は、大郷町の「定住可能性」を高めるための重要課題！